

秋田県環境保全センター

D区Ⅱ期処分場

県内の中小企業等から排出される産業廃棄物の処理を行うため、昭和51年に公共関与による施設として「秋田県環境保全センター」を設置し、最終処分を行っています。

平成29年度からD区Ⅱ期処分場の造成工事を実施し、令和2年5月12日にDⅡ－1区画が供用開始となりました。



秋 田 県

秋田県環境保全 センター 全景

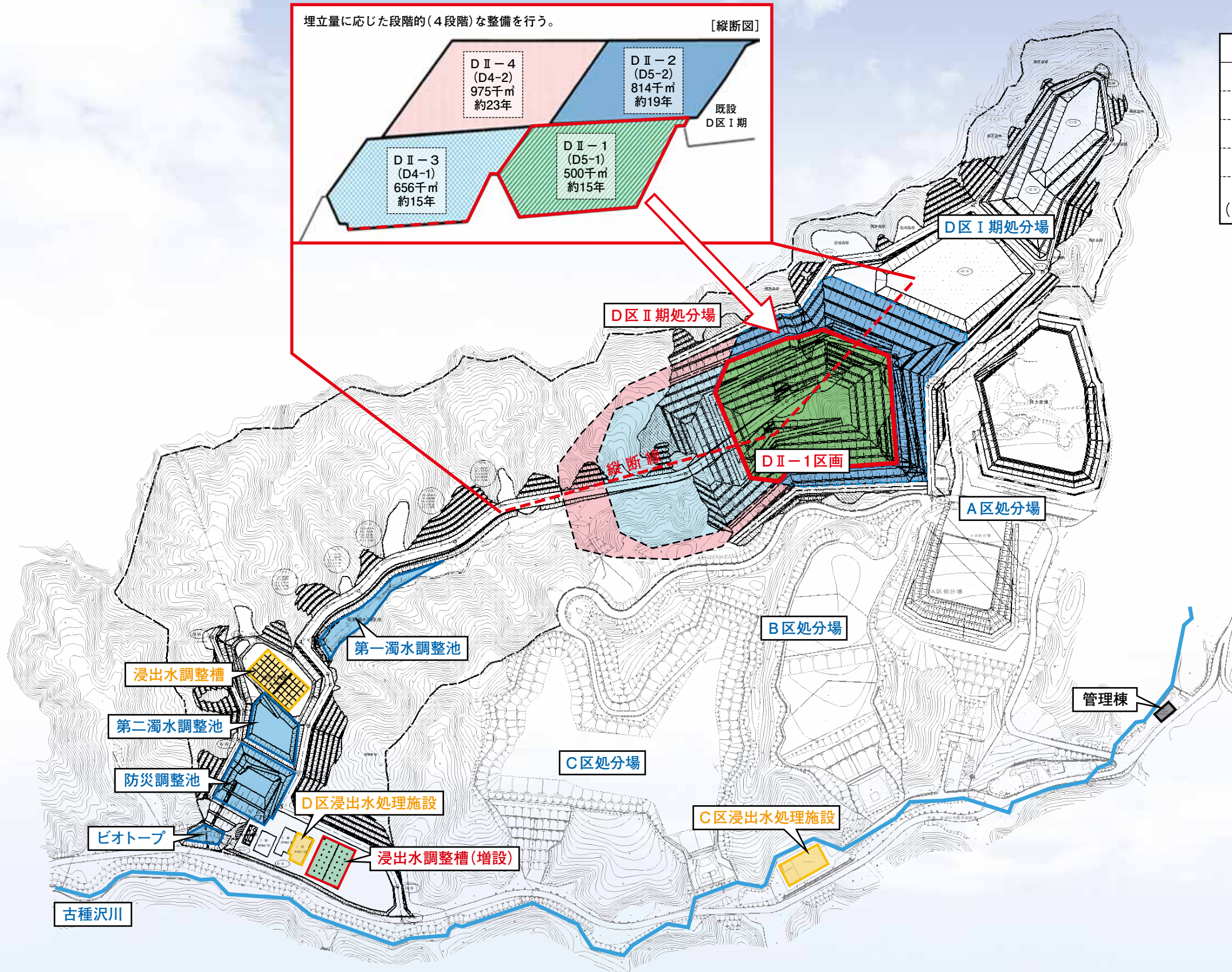
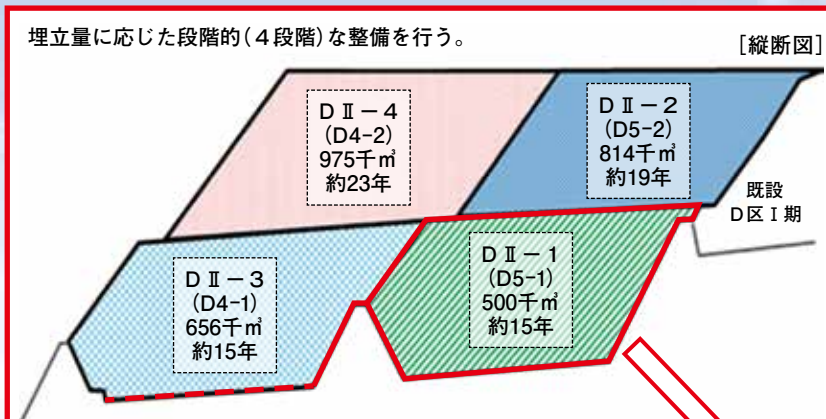


環境保全センターD区 II期処分場について

【D区II期処分場の整備方針】

埋立量に応じた段階的(4段階)な整備を行う。

[縦断図]



処分場名称	埋立面積	埋立容量	埋立期間	備考
A区	6.8ha	688千 m^3	S51~H4	埋立終了
B区	4.0ha	500千 m^3	H4~H8	埋立終了
C区	7.5ha	1,448千 m^3	H8~H19	埋立終了
D区I期	6.0ha	1,072千 m^3	H18~R2	供用中
D区II期 (DII-1区画)	4.1ha	500千 m^3	R2~R17	令和2年5月 供用開始

【D区II期処分場(DII-1区画)の諸元】

種類	産業廃棄物管理型最終処分場		
工期	平成29年10月~令和2年5月		
埋立期間	令和2年5月~令和17年(予定)		
埋立面積	41,000 m^2		
埋立容量	500,000 m^3		
廃棄物の種類	ガラス・陶磁器くず、污泥、燃えがら等		
工事費	4,740,432千円		
施工	鹿島・中田・大森・荒屋舗・佐藤 特定建設工事共同企業体		

【D区処分場設備の諸元】

濁水処理設備	第一濁水調整池容量	25,000 m^3
濁水処理設備	第二濁水調整池容量	10,000 m^3
防災調整設備	防災調整池容量	28,200 m^3

【水処理設備の諸元】

C区水処理施設	最大処理能力	1,422 m^3 /日
D区水処理施設	最大処理能力	300 m^3 /日
浸出水調整設備	調整槽容量(既存)	9,900 m^3
〃	(増設)	17,000 m^3

埋立処分場（D区Ⅱ期区画）の構造

遮水シート



二重シートにより漏水を防ぎます

監視カメラ



遠隔操作により広範囲を監視します

監視モニター



施設内において状況をリアルタイムで監視します

浸出水集排水管



浸出水を効率よく集め浸出水処理施設へ送水します

ガス抜き管

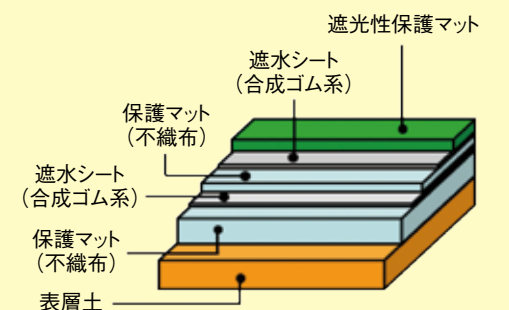


廃棄物層のガス抜きと空気の供給を行います

遮水工の構造

- 表層（最上層）に遮光性の不織布（8mm）を敷設
- 合成ゴム系の遮水シート（1.5mm厚）による二重遮水
- シートの間及び下層に不織布（10mm）を敷設
- 表層には改良土（50cm）を敷設

〔遮水シート〕



環境保全センター 水処理フロー



第一濁水調整池



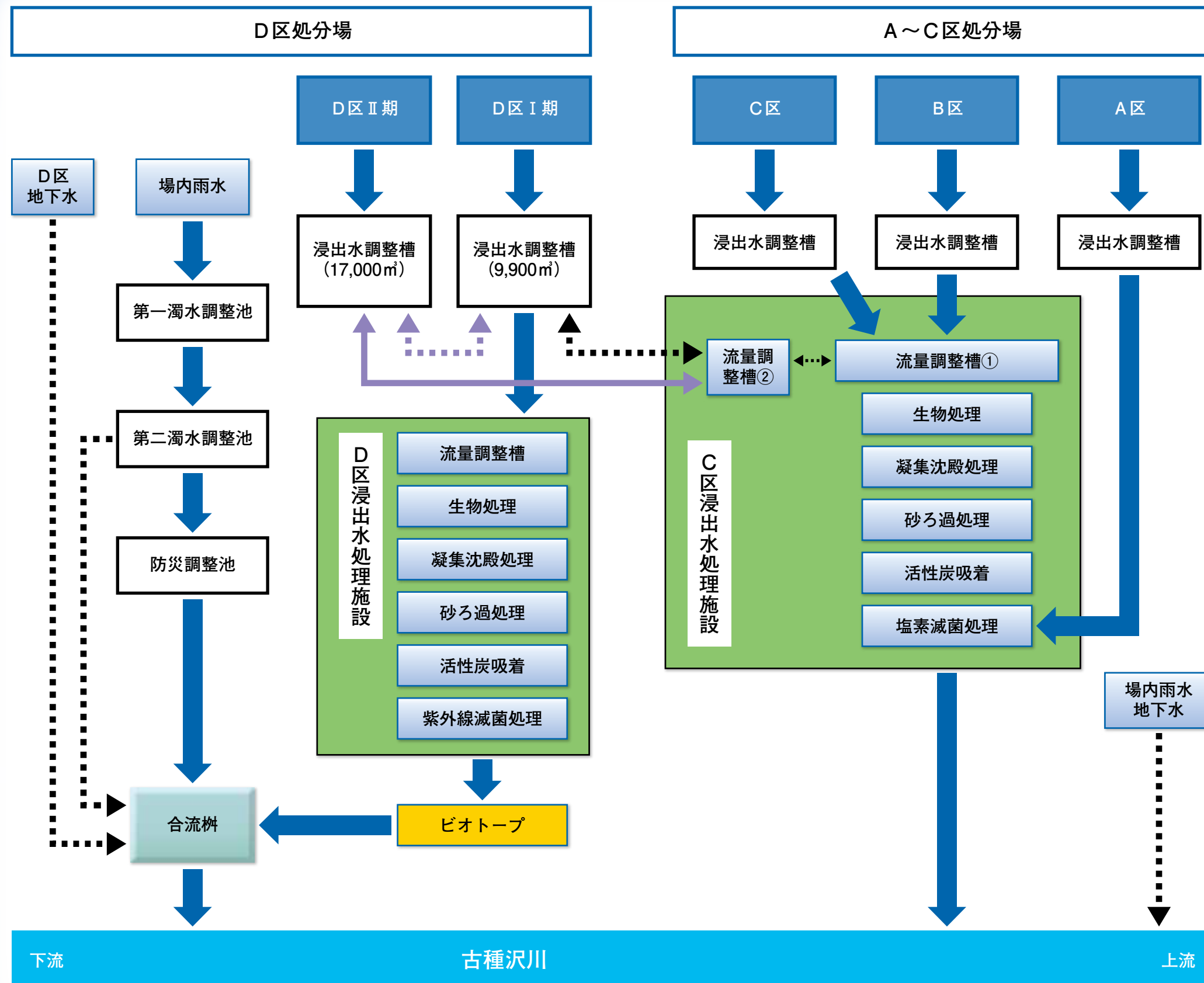
第二濁水調整池



防災調整池



ビオトープ



C区浸出水処理施設



D区浸出水処理施設



浸出水調整槽(17,000m³)



浸出水調整槽(9,900m³)

維持管理について

維持管理計画書に基づき、次のとおり維持管理を行っています。

搬入時の廃棄物の確認

車両が施設へ入場する前に、搬入された物が最終処分できる品目であることを確認。

埋立作業

廃棄物が飛散・流出しないよう、重機による転圧及び覆土を実施。

施設の維持管理

各施設を毎作業日巡視し、異常の有無を作業日誌に記録。

水質モニタリング

施設の維持管理状況を確認するため放流水、浸出水、地下水の定期的な調査を実施。

発生ガス濃度等モニタリング

施設の安全性等を確認するため、発生ガス濃度及び悪臭の状況について定期的な調査を実施。



ビオトープについて

豊かな自然や生き物の生息する環境を残すため、環境保全センター内にビオトープを整備しています。

処分場処理水から水の流れをつくり、池を配置して水辺の環境を再現しています。

小魚やトンボが生息しています♪



ビオトープ

生き物（Bio）がありのままに生息活動する場所（Top）という意味の合成されたドイツ語です。

自然が自ら再生できるように、人間が配慮する運動として、1970年代にドイツが始まりました。



■ 秋田県生活環境部環境整備課

〒010-8570 秋田県秋田市山王4丁目1-1
TEL.018-860-1624

■ 秋田県環境保全センター

〒019-2413 秋田県大仙市協和上淀川字雨池沢45
TEL.018-892-3045



秋田県環境美化マスコット
クリンちゃん